

大学等名	京都女子大学
プログラム名	京女のデータ・AIリテラシープログラム

プログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違しない

② 対象となる学部・学科名称

③ 修了要件

「データ・AIリテラシー」及び「情報リテラシー」の2科目4単位を修得すること。

必要最低科目数・単位数

2 科目

4 単位

履修必須の有無

令和5年度以前より、履修することが必須のプログラムとして実施

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
データ・AIリテラシー	2	○	○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
データ・AIリテラシー	2	○	○	○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
データ・AIリテラシー	2	○	○	○					

⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
データ・AIリテラシー	2	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
データ・AIリテラシー	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
情報リテラシー	4-3データ構造とプログラミング基礎		

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	<ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット「データ・AIリテラシー」(2回目) ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化「データ・AIリテラシー」(1回目) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会「データ・AIリテラシー」(2回目) ・複数技術を組み合わせたAIサービス「データ・AIリテラシー」(2回目) ・人間の知的活動とAIの関係性「データ・AIリテラシー」(3回目) ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方「データ・AIリテラシー」(3回目)
	1-6	<ul style="list-style-type: none"> ・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど)「データ・AIリテラシー」(2回目) ・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、敵対的生成ネットワーク、強化学習、転移学習など)「データ・AIリテラシー」(2回目)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	<ul style="list-style-type: none"> ・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「データ・AIリテラシー」(2回目) ・1次データ、2次データ、データのメタ化「データ・AIリテラシー」(2回目) ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など)「データ・AIリテラシー」(1回目) ・データ作成(ビッグデータとアノテーション)「データ・AIリテラシー」(4回目) ・データのオープン化(オープンデータ)「データ・AIリテラシー」(3回目)
	1-3	<ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)「データ・AIリテラシー」(2回目) ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど「データ・AIリテラシー」(2回目) ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など「データ・AIリテラシー」(2回目)
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	<ul style="list-style-type: none"> ・データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見、最適化、シミュレーション・データ同化など「データ・AIリテラシー」(4回目) ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化など「データ・AIリテラシー」(4回目) ・非構造化データ処理: 言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など「データ・AIリテラシー」(4回目) ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ「データ・AIリテラシー」(3回目) ・認識技術、ルールベース、自動化技術「データ・AIリテラシー」(2回目)
	1-5	<ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案)「データ・AIリテラシー」(4回目) ・流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「データ・AIリテラシー」(1回目)

(4) 活用に当たっての様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・ELSI (Ethical, Legal and Social Issues)「データ・AIリテラシー」(3回目) ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト「データ・AIリテラシー」(3回目) ・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「データ・AIリテラシー」(3回目) ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)「データ・AIリテラシー」(3回目) ・データバイアス、アルゴリズムバイアス「データ・AIリテラシー」(3回目) ・AIサービスの責任論「データ・AIリテラシー」(3回目) ・データ・AI活用における負の事例紹介「データ・AIリテラシー」(3回目)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ: 機密性、完全性、可用性「データ・AIリテラシー」(3回目) ・匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取「データ・AIリテラシー」(3回目) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「データ・AIリテラシー」(3回目)
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・データの種類(量的変数、質的変数)「データ・AIリテラシー」(8回目) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「データ・AIリテラシー」(8回目) ・代表値の性質の違い(実社会では平均値≠最頻値でないことが多い)「データ・AIリテラシー」(10回目) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)「データ・AIリテラシー」(10回目) ・観測データに含まれる誤差の扱い「データ・AIリテラシー」(10回目) ・打ち切りや脱落を含むデータ、層別の必要なデータ「データ・AIリテラシー」(10回目、12回目) ・相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡)「データ・AIリテラシー」(11回目) ・母集団と標本抽出(国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出)「データ・AIリテラシー」(13回目) ・クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列「データ・AIリテラシー」(9回目、14回目) ・統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない)「データ・AIリテラシー」(9回目、15回目)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ)「データ・AIリテラシー」(7回目) ・データの図表表現(チャート化)「データ・AIリテラシー」(7回目) ・データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト)「データ・AIリテラシー」(8回目) ・不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素)「データ・AIリテラシー」(7回目) ・優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など)「データ・AIリテラシー」(7回目)
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> ・データの集計(和、平均)「データ・AIリテラシー」(5回目) ・データの並び替え、ランキング「データ・AIリテラシー」(6回目) ・データ解析ツール(スプレッドシート)「データ・AIリテラシー」(6回目) ・表形式のデータ(csv)「データ・AIリテラシー」(4回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

データサイエンスとAI利活用について、背景を通じて、意味や求められるものを理解できる。
 データ活用上の留意点(データ倫理の重要性等)を理解できる。
 Excelを使って、データを加工・分析し、結果を解釈し説明できる。
 数量データを含む多様な情報を収集・分析・表現し、活用するためのリテラシーを身に付ける。

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容 ※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム改訂版」(2024年2月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)において追加された生成AIに関連するスキルセットの内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に伺うものであり、認定要件とはなりません。

講義内容
<p>大学が定めている生成AI利用ガイドラインについて説明を行っている。</p>

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 年度

②大学等全体の男女別学生数 男性 人 女性 人 (合計 人)

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
文学部	1,656	385	1,540	393	368											393	26%
発達教育学部	1,503	350	1,400	360	350											360	26%
家政学部	1,036	240	960	221	217											221	23%
現代社会学部	1,209	250	1,000	257	243											257	26%
法学部	513	120	480	136	126											136	28%
データ・サイエンス学部	99	95	380	98	97											98	26%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合計	6,016	1,440	5,760	1,465	1,401	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,465	25%

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

- ① 全学の教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人
- ② プログラムの授業を教えている教員数 人
- ③ プログラムの運営責任者
 (責任者名) (役職名)

- ④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

 (責任者名) (役職名)

- ⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

- ⑥ 体制の目的

- ⑦ 具体的な構成員

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和5年度実績	25%	令和6年度予定	50%	令和7年度予定	75%
令和8年度予定	100%	令和9年度予定	100%	収容定員(名)	5,760

具体的な計画

「データ・AIリテラシー」は令和5年度入学生から適用される新カリキュラムの科目である。「情報リテラシー」とともに共通科目群の中の科目区分「情報基盤科目」に位置づけ、全学部学生について「情報リテラシー」2単位、「データ・AIリテラシー」2単位の計4単位を卒業必修単位としている。1回生開講科目であるため、履修率は毎年度25%ずつ増加する。カリキュラムが完成する令和8年度以降は1回生が履修中、2回生以上が履修済となるため、履修率100%を予定している。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

学部学科に関わらず学生全員が受講できるよう、令和5年度入学生以降適用の新カリキュラムにおいて、全学部学生の卒業必修科目としている。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

令和5年度入学生以降適用の新カリキュラムにおいて、全学部学生の卒業必修科目としている。1回生開講の必修科目につきクラス分けの指定を行った上で、履修登録は自動登録とし履修登録漏れを防いでいる。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

授業時、教員以外に授業補助員を配置し、履修学生が授業中気軽に質問できる体制を整えている。授業補助員は常に巡回し、受講時の操作補助や課題進捗管理のフォロー、PBL思考力を鍛えるためのサポートを行っている。また、各授業の収録動画を公開し、履修学生が閲覧できる環境を整備している。欠席者の利用が主であるが、授業の復習目的で視聴する学生が増えている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

LMSでの個別質問を受け付ける体制を整備している。また授業とは別途、質問や相談できるPC操作サポートクラスを毎週開講している。PC操作サポートクラスでは授業内容や課題に関する質問や相談対応に加え、学習したスキルを資格へつなげるための練習問題や模擬問題を発展課題として準備の上、案内している。これにより、学生が自身に必要な復習や興味のある発展課題への挑戦、PBLの進捗に合わせた学習など、様々な目的での利用が増えた。また、利用している学生同士で情報交換するなど学びの場が広がっているケースも見られた。さらに、予習復習用のe-Learning教材を提供し自己学習を促している。

大学等名 京都女子大学

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

情報基盤専門部会、情報基盤センター運営委員会

(責任者名) 宮下 健輔

(役職名) 情報基盤部長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	情報基盤センター運営委員会宛に、授業担当者による履修状況の報告を毎週実施しており、学期末には単位修得状況も含めた報告を実施している。これらの報告は情報基盤センター運営委員会を通じて情報基盤専門部会にも共有され、それぞれの会議で議論され、授業担当者へフィードバックされている。
学修成果	上述の授業担当者による報告に毎回の学生の理解度に関するものも含まれており、学期末には全体的な学修成果の把握及び成績不振者について個別に分析している。これらのことについては情報基盤センター運営委員会を通じて情報基盤専門部会にも共有されている。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	大学全体で実施している授業アンケートだけでなく、本プログラム科目独自のアンケートを実施し、きめ細かい理解度の把握に努めている。アンケート結果は学期末に情報基盤センター運営委員会に報告され、そこで議論された結果は情報基盤専門部会に報告されている。これをもとに次年度のシラバスや授業内容の改善に繋げている。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	大学全体で行う授業アンケートとは別途、個別に授業内アンケートを行っている。この個別アンケートの結果を分析し、授業内容の改善及び進化に役立っている。卒業必修科目に位置づけているため、まずは授業改善への取組に生かすことを目的とし、これが結果的に後輩等学生への還元につながると思う。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	令和5年度入学生より卒業必修科目に位置づけているため、全学的な履修者数は年次進行とともに増加し、カリキュラムが完成する令和8年度には100%になる見込みである。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>本プログラムは令和5年度より開講した。現在は、新カリキュラム適用の令和5年度入学の1回生しか履修していない状況である。本プログラムを修了した卒業生の輩出は令和8年度以降になるため、進路、活躍状況、企業等の評価については、所管部署と連携を図りながら注視していく予定である。</p> <p>令和5年度には外部のオンライン学習サービス運営企業と提携して、学生が本プログラム科目とともにプログラミング等を学べる環境を用意した。また、同企業とともに令和5年7月にシンポジウムを開催し、本プログラム科目による女性のキャリア形成について意見交換を実施した。令和6年度以降も同様の取り組みを継続したいと考えている。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>学生が本プログラムで学んだことを今後どのように活用できるのか、具体的にイメージできるように、学科ごとに研究や学生の将来への活用について学科教員の協力を得て情報をまとめた資料を授業内で提供したところ、データとの関連が薄いイメージをもっていたが、より身近に感じられるようになったとアンケートに回答した学生が多く見られた。受講モチベーション向上や受講継続に効果があったと考えられる。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>授業アンケートの結果を参考とし、次年度への授業内容検討に生かし、改善につなげている。具体的には、令和5年度にはデータ分析の具体例として東京都を取り上げていたが、令和6年度にはこれを京都市とすることにより、学生にとってより身近でわかりやすい内容となるよう工夫している。</p>

シラバス番号	C1-176		
年度	2023年度		
授業科目名	データ・AIリテラシー		
開講日程	前期/火曜日 2講時	講義コード	0007776
授業形態	演習	単位数	2
対象学生	データ1	担当形態	単独
担当教員	坂本 美奈子	ナンバリングコード	C11322
教職課程関連科目			
法定規程科目			
教職課程関連科目			
施行規則に定める 科目区分又は率項等			
カリキュラムマップ	汎用的技能		

副題
データサイエンスとAI活用の基礎知識と基礎的手法を系統的に学ぶ。

授業の到達目標
データサイエンスとAI利活用について、背景を通じて、意味や求められるものを理解する。 データの中から、Excelを使って、データを加工し、分析する手法を学び、表現できる。

授業の概要
近年、AI、ビッグデータ、IoTをはじめとするデータ利活用に関連する新技術が進展し、第4次産業革命といわれている。例えば、産業用機械、家電、自動車等のモノがインターネットに接続する技術が可能となり、社会や産業に大きな変革が起こってきている。この授業では、データ分析に必要な基礎知識とコンピュータを活用した分析方法を学ぶ。

授業計画
<p>1.オリエンテーション/データサイエンスとは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の目的/到達目標 ・ 教材、e-Learningについて ・ データサイエンスの意味 ・ データサイエンスが必要とされる背景 ・ データと情報の違い ・ 非構造化データ、構造化データについて <p>2.社会におけるデータ・AI利活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Society 5.0 ・ これからの社会に求められるもの ・ 人工知能 (AI) とは ・ データ・AI活用領域の広がり ・ AI技術活用事例 <p>3.データ・AI利活用留意事項</p>

- ・ AIとは異なるヒトの存在意義
- ・ AI技術が引き起こす社会の課題
- ・ 個人情報保護
- ・ 情報とセキュリティ
- ・ データの安全性を脅かすもの
- ・ 技術的対策
- ・ データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護

4. データ活用の目的とプロセス

- ・ データを扱う基本
- ・ 研究への活用
- ・ データ活用のプロセスと活用事例
- ・ グラフでの表現と考察

5. コンピュータで扱う数値やデータに関する基礎知識 (Excel-1)

- ・ 数式
- ・ 関数

6. コンピュータで扱う数値やデータに関する基礎知識 (Excel-2)

- ・ 関数の応用
- ・ データベース機能
- ・ 便利な機能

7. コンピュータで扱う数値やデータに関する基礎知識 (Excel-3)

- ・ グラフ作成の基礎
- ・ ピボットグラフ
- ・ グラフで実用的に表現する

8. データを物語る

- ・ データ活用のプロセス
- ・ データの前処理
- ・ 統計解析
- ・ 集めた情報からの読み取り

9. 必要なデータを集める

- ・ オープンデータ
- ・ 情報を幅広く集める
- ・ データベース機能

10. 統計活用事例に学ぶ-1

- ・ 顧客分析を体験する
- ・ データの特徴を捉える、傾向をつかむ
- ・ ばらつきを可視化
- ・ 顧客のグループ分け
- ・ 販売戦略を考えてみる

11.統計活用事例に学ぶ-2

- ・天気と売上の関係と効果的な販売・仕入①
- ・統計の活用事例を確認
- ・データの傾向把握と変動要因の考察、仮説と検証
- ・データの関係について調べる

12.統計活用事例に学ぶ-3

- ・天気と売上の関係と効果的な販売・仕入②
- ・販売個数の予測
- ・仕入計画を考えてみる
- ・次回使用データの収集

13.統計局データを使用してデータ分析を行う-1

- ・人口に関する公的統計を使用して、都市計画に挑戦①
- ・必要なデータの入手
- ・人口推移を比較
- ・人口比率について分析

14.統計局データを使用してデータ分析を行う-2

- ・人口に関する公的統計を使用して、都市計画に挑戦②
- ・区の特徴を分析
- ・分析結果を文章にまとめる

15.統計局データを使用してデータ分析を行う-3

- ・人口に関する公的統計を使用して、都市計画に挑戦③
- ・都市計画を考える
- ・相互評価
- ・総まとめ

授業時間外学習

この授業では予習・復習など、自主学習を行うことを前提としている。課題等、自主学習のガイドラインは提示する。知りたいこと・分からないことを主体的に調べ、理解する取り組みを期待する。

学生へのメッセージ

この授業の到達目標は、これからの時代を生き抜く教養として欠かせないデータサイエンスやAI利活用について背景を理解した上で、自身の研究や将来につながる知見を得ることである。多様な価値観の中で、ジェンダー平等の実現や時代の変化に合わせた新たな価値創造に必要な視点や考察力、分析手法を身に付けるため、グループワークを交えながら学習する。

教科書

【購入必要】 『基礎からはじめるデータサイエンス』 noa出版

参考書

授業中に指示する。

学位授与の方針との関連
<p>社会におけるデータサイエンスやAI利活用の仕組みやリテラシーを理解している。 Excelを使って基本的なデータ分析や考察、予測などができる。</p>

課題に対するフィードバック
<p>授業中に指示する。</p>

関連分野
<p>情報リテラシー、情報基礎、データ・AI基礎</p>

当該科目に関連した実務経験の有無
<p>無</p>

授業形態
<p>対面授業</p>

授業形態詳細
<p>15回全て教室にて実施する。 必携ノートパソコンを使用した実機演習により習得する。 終盤にグループワークを行うことで学習テーマについて意見交換しながら成果物を作成する。</p>

成績評価の方法		
評価項目	配分(%)	評価の観点
授業内外の学習成績	45	授業内で取り組む演習課題の提出状況や、内容の完成度、授業内容に関する宿題等
事前学習の取り組み（予習・復習、e-Learning等）	15	予習課題の提出、e-Learningコンテンツの学習等
PBL・到達度確認テスト	40	到達度確認課題、授業内試験、PBL成果物

AL区分	
振り返り	事前事後学習を授業内で指示をする
グループ学習	授業内で行う
ディスカッション	授業内で行う
実験・実習・実技	実習を行う
PBL（課題解決型学習）	授業内で行う
反転授業	事前事後学習を授業内で指示をする

シラバス番号	C1-137		
年度	2023年度		
授業科目名	情報リテラシー		
開講日程	前期/月曜日 3講時	講義コード	0007736
授業形態	演習	単位数	2
対象学生	データ1	担当形態	単独
担当教員	座古 亜紀	ナンバリングコード	C11322
教職課程関連科目			
法定規程科目			
教職課程関連科目			
施行規則に定める 科目区分又は率項等			
カリキュラムマップ	汎用的技能		

副題
情報活用の基礎知識と基礎的手法を系統的に学ぶ。

授業の到達目標
情報システムを学生生活で生かすための基礎を学ぶ。また社会生活に必要なIT系の基礎的技法と基礎知識を系統的に習得する。

授業の概要
社会基盤としてのICT（情報コミュニケーション技術）を学生生活で生かすための知識とスキルについて、総合学習を交えて実践的に習得する。また加速度的に発展する情報システム技術を社会生活で活かすための情報リテラシーについて、統合的な座学とグループ討論等を通して主体的に学ぶ。

授業計画
<p>1.大学の情報環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の目的/到達目標 ・ PCの基本操作 ・ 学内環境の利用方法 ・ 教材、e-Learningについて ・ メールのマナーと署名作成 ・ Office365、Onedrive、Teams <p>2.情報とコミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報とは ・ 情報システムと社会 ・ 情報伝達と通信技術 ・ 情報通信とコミュニケーション ・ 情報格差 ・ オンラインツール <p>3.情報の表現とアクセシビリティ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報の表現

- ・情報倫理、アクセシビリティ
- ・データの活用
- ・仮想現実、複合現実
- ・機械学習

4.情報社会の法と権利

- ・情報社会の問題点
- ・著作権、知的財産権
- ・肖像権、パブリシティ権
- ・個人情報保護法
- ・情報技術の進展に伴う法の変化

5.総合学習-1・データの処理と分析-1

- ・レポート作成の目的とテーマ選び
- ・データの収集と処理・分析
- ・集めた情報の運用方法
- ・テーマの議論と決定（PBLワーク）

6.総合学習-2

- ・レポート作成時の注意点
- ・論理的思考
- ・アウトライン設計について
- ・レポート作成（PBLワーク）

7.総合学習-3・データの処理と分析-2

- ・分析のプロセス
- ・数値分析、統計
- ・図解表現、グラフ化
- ・レポート作成（PBLワーク）

8.総合学習-4

- ・相互評価
- ・レポートのブラッシュアップ
- ・レポートのスライド化（PBLワーク）

9.総合学習-5

- ・フィードバックとブラッシュアップ（PBLワーク）
- ・相互評価
- ・クラス横断評価について
- ・PBL振り返りとまとめ"

10.データベース

- ・データベースとは
- ・データベースの形と種類
- ・データの抽出

・データベースの設計とモデル化

11.デジタル表現-1（色、画像）

- ・コンピュータにおける画像や文字
- ・アナログ情報からデジタル情報へ
- ・画像フォーマット
- ・静止画と動画の特性

12.デジタル表現-2（音）

- ・音声情報のデジタル化
- ・音データの特性と音声フォーマット
- ・音データと動画データの特性
- ・AIの活用と音声合成

13.アルゴリズムとプログラミング

- ・コンピュータにおける問題解決の考え方
- ・アルゴリズムとは
- ・プログラミングとは
- ・プログラミングの手法
- ・プログラミング演習"

14.ネットワークとセキュリティ

- ・ネットワークとは
- ・インターネットとセキュリティ
- ・コンピュータウイルスや不正アクセスと対策
- ・個人のセキュリティ対策

15.現代社会と情報システム

- ・情報システムとデジタル経済
- ・Society5.0
- ・変わる行政やまちづくり
- ・社会問題との関わり
- ・AIに代替されない力

授業時間外学習

この授業では予習・復習など、自主学習を行うことを前提としている。課題等、自主学習のガイドラインは提示する。知りたいこと・分からないことを主体的に調べ、理解する取り組みを期待する。

学生へのメッセージ

この授業の到達目標は、大学の情報環境を理解し、情報系の基礎的知識と実践的手法を総合的に学ぶことである。そのテーマは情報とコミュニケーション、情報の表現とアクセシビリティ、情報社会の法と権利、データベース、データの処理と分析、デジタル表現（画像・色・音）、アルゴリズムとプログラミング、ネットワークとセキュリティ、現代社会と情報システムなどである。これらのテーマをグループワークを交えながら学習する。

教科書
【購入必要】『イチからしっかり学ぶ！Office基礎と情報モラル365&2021対応』noa出版

参考書
授業中に指示する。

学位授与の方針との関連
<ul style="list-style-type: none"> ・数量データを含む多様な情報を収集・分析・表現し、活用するためのリテラシーを理解している。 ・情報技術（ICT）について理解し、活用するために自分の言葉で仕組みを説明することができる。

課題に対するフィードバック
授業中に指示する。

関連分野
データ・AIリテラシー、情報基礎、データ・AI基礎

当該科目に関連した実務経験の有無
無

授業形態
対面授業

授業形態詳細
<p>15回全て教室にて実施する。</p> <p>パソコンやOffice系ソフトの操作を実機演習により習得する。</p> <p>中盤にグループワークを行うことで学習テーマについて意見交換しながら成果物を作成する。</p>

成績評価の方法		
評価項目	配分(%)	評価の観点
授業内外の学習成績	15	授業内で取り組む演習課題の提出状況や、内容の完成度、授業内容に関する宿題等
事前学習の取り組み（予習・復習、e-Learning等）	35	予習課題の提出、e-Learningコンテンツの学習等
PBL・到達度確認テスト	50	到達度確認課題、授業内試験、PBL成果物

AL区分	
振り返り	事前事後学習を授業内で指示をする
グループ学習	授業内で行う
ディスカッション	授業内で行う
実験・実習・実技	実習を行う
PBL（課題解決型学習）	授業内で行う
反転授業	事前事後学習を授業内で指示をする

2023 単位修得要領

京都女子大学

「2023 単位修得要領」は、2023 年度に入学した学生が卒業するために必要な学的事項を記載した冊子です。回生が変わっても、卒業するまで使用します。大切に保管してください。

カリキュラムは、年次の途中で変更になることがあります。

自分の入学年度以外の年度に発行された単位修得要領等は、内容が異なりますので参考にしないでください。

京都女子大学 HP（在学生のページ）に単位修得要領が掲載されています。



はじめに

「2023 単位修得要領」には、学生の皆さんが、自分自身でこの4年間の学生生活を計画し、実現していくために、欠かすことができない、基本的かつ重要な情報がまとめられています。

「単位修得要領」は、Ⅰ. 京都女子大学のカリキュラム、Ⅱ. 履修科目表・カリキュラムマップ、Ⅲ. 免許・諸資格、Ⅳ. 京都女子大学履修要項、等が記載されています。

大学では、「学則」や諸規定で定められたルールに従って、学生自身が自分の判断で授業科目を選択し、履修登録をして学修を進めていかなければなりません。

所属する学部・学科・専攻の教育課程の目的に応じて卒業に必要な単位数があり、必ず履修しなければならない科目がありますが、希望する進路や興味・関心に応じて履修する選択科目も多く開講されています。また、資格取得を希望する人は、その資格ごとに定められた科目を履修しなければなりません。

今、大学では「学びの質」が問われています。1年間に登録できる単位数に上限を設けています（CAP制）。これは、授業時間に学ぶだけでなく、その科目の授業を受けるための準備や関心のある事柄について、理解を深める学習の時間を確保し、学びを深める必要があるからです。修得した単位数の多さではなく、大学でどのような力を身につけたのか、何ができるようになったのか、社会で通用する力を確実に身につけてきているのか等、「自ら考え行動する人材」を社会は求めています。自分で責任をもって登録し、学習目標に沿って確実に力をつけていってください。

「単位修得要領」や、京女ポータルで公開している「シラバス（授業計画書）」を十分に読んで、時間割表を見ながら、自分自身で一年間の履修計画をしっかりと立て、確実に、学修を進めてください。シラバスには、授業の到達目標、カリキュラムマップの6つの能力、授業の概要や計画、時間外学習等について記載してありますので、熟読して、授業に臨んでください。

皆さん一人ひとりの夢や希望がかなえられるよう、この「単位修得要領」を卒業まで手元において活用し、学びを積み重ね、「一生つづくチカラ」をつけていくことを望みます。

京都女子大学において、4年間有意義な学生生活を送れることを、期待しています。

2023 単位修得要領 目次

I. 京都女子大学のカリキュラム

履修について	P.2
卒業に必要な単位数、必修科目と選択科目等について、各科目群の必要単位数について、再履修について、履修登録について、履修登録単位数の上限（CAP制）、カリキュラムマップ、ナンバリング	
他大学で修得した単位の認定について	P.8
成績評価について	P.9
京都女子大学副専攻プログラム	P.10

II. 履修科目表・カリキュラムマップ

建学科目群	P.16
共通科目群	P.16
諸課程履修科目	P.24
専門科目群	
文学部	国文学科 P.29
	英文学科 P.32
	史学科 P.35
発達教育学部	教育学科教育学専攻 P.40
	教育学科養護・福祉教育学専攻 P.43
	教育学科音楽教育学専攻 P.45
	児童学科 P.48
	心理学科 P.50
家政学部	食物栄養学科 P.52
	生活造形学科 P.54
現代社会学部	現代社会学科 P.58
法学部	法学科 P.62
データサイエンス学部	データサイエンス学科 P.66
履修科目チェックシート	P.70

III. 免許・諸資格

教職課程	P.87
教員免許の取得にあたって	P.88
教員免許の科目履修表	P.89
諸資格	P.117
諸資格の科目履修表	P.118

IV. 京都女子大学 履修要項 P.134

I . 京都女子大学のカリキュラム

詳細については履修要項 (P.134 ~) を熟読してください。

履修について

■卒業に必要な単位数

卒業するためには、所定の授業科目を履修し合計 132 単位以上の修得が必要です。(履修要項第 1 条)
諸課程履修科目 (P.24~P.25) は卒業要件に含みません。

科目群	科目区分	卒業要件単位数	
		必修 及び 選択必修	選択
建学科目群	仏教学	8 単位	—
共通科目群	言語コミュニケーション科目	8 単位	30 単位 「共通科目群」及び 「専門科目群」より 合計 30 単位を 自由に選択
	情報基盤科目	4 単位	
	健康科学科目	2 単位	
	ジェンダー科目 連携活動科目 国際理解科目 教養科目 オープン科目	8 単位 5 つの科目区分より 合計 8 単位を 自由に選択	
	専門科目群	72 単位 (※) 必修科目を全て含めて 合計 72 単位を選択	
	卒業要件単位数の合計	132 単位	

※ 各学科・専攻の専門科目については P.29~P.67 参照。

■必修科目と選択科目等について

必修科目

必修科目とは卒業するために必ず修得しなければならない科目のことで、科目一覧表の「必選の別」に「必」と記載されています。

必修科目が不合格となった場合は、必ず次年度以降に再履修してください。(再履修については P.3 を確認してください。)

選択科目と選択必修科目

選択科目とは自由に選択して履修できる科目のことで、科目一覧表の「必選の別」に「選」と記載されています。

ただし、「選」と記載された科目の中には、「この中から○単位修得すること」「○○コース・系列の者は必修」のように、指定された範囲から定められた単位数を選択して修得しなければならない科目があり、これらを選択必修科目といいます。

選択必修科目の履修条件は、履修科目表の備考欄に記載されています。

■各科目群の必要単位数について

建学科目群

仏教学(8 単位必修)

仏教学ⅠA、仏教学ⅠB、仏教学ⅡA、仏教学ⅡB は必ず修得してください。

共通科目群

言語コミュニケーション科目(8 単位必修)

- ・英語ⅠA1、英語ⅠA2、英語ⅠB1、英語ⅠB2 は必ず修得してください。
- ・初修外国語のドイツ語、フランス語、中国語、韓国語のいずれか1言語について、
〇〇語ⅠA1、〇〇語ⅠA2、〇〇語ⅠB1、〇〇語ⅠB2 は必ず修得してください。

情報基盤科目(4 単位必修)

情報リテラシー、データ・AIリテラシーは必ず修得してください。

健康科学科目(2 単位必修)

運動と健康科学は必ず修得してください。

ジェンダー科目・連携活動科目・国際理解科目・教養科目・オープン科目 (8 単位選択必修)

5つの科目区分より、自由に選択して合計8単位を必ず修得してください。

専門科目群

学科専門科目

各学科・専攻の専門科目(P.29～P.67)より、必修科目をすべて含めて合計72単位を修得してください。

その他:諸課程履修科目

諸課程履修科目(P.24～P.25)は卒業に必要な単位に含めることができません。

■再履修について

不合格になった科目や開講年次に履修できなかった科目は次年度以降に履修(再履修)することができます。卒業必修科目が不合格となった場合は必ず再履修してください。

建学科目群、共通科目群及び諸課程履修科目の再履修方法については、「履修の手引き」を確認してください。

■カリキュラムマップ

本学では、学位授与の方針（※）として、修得すべき6つの能力を示しています。（表1）

また、P.16以降の履修科目表では、各科目と6つの能力の関連性を「カリキュラムマップ」に示しています。（卒業要件の単位にはならない「諸課程履修科目」を除く。）

各科目においてそれぞれの能力と特に深い関連性のある項目は「◎」、ある程度関連性のある項目は「○」を付しています。

（※）学位授与の方針については Web 上に詳細を掲載しています。

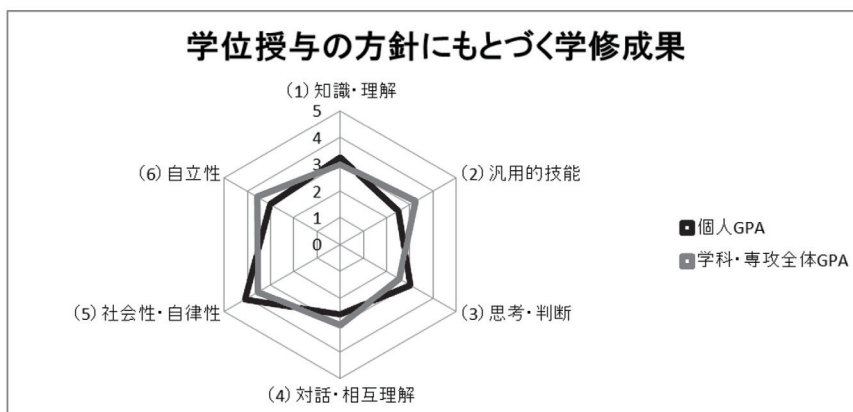
表 1

<p>1. 知識・理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ①専門分野について、高度の知識・理解・技能を有している。 ②人文、社会、自然など、広い教養を有している。 ③宗教に対する正しい理解と正しい批判力とを有している。 <p>2. 汎用的技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ①日本語を正確に理解・表現できる。 ②母語以外の特定の外国語が運用できる。 ③数量データを含む多様な情報を収集・分析・表現し、活用できる。 ④情報通信技術(ICT)を活用することができる。 <p>3. 思考・判断</p> <ul style="list-style-type: none"> ①主体的で批判的・合理的な思考を展開できる。 ②専門分野の知識・理解等に拠りつつ、広い視野と根拠に基づいて判断できる。 ③主体的に課題を発見・解決できる。 	<p>4. 対話・相互理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ①様々な状況に応じた、適切な表現・理解、態度による対話ができる。 ②対話・議論を通して、他者（異文化も含めて）との相互理解・協調に努めることができる。 <p>5. 社会性・自律性</p> <ul style="list-style-type: none"> ①高い倫理観を備え、市民としての社会的責務に対する自覚を有している。 ②社会の規範やルールに従って、自らを律して行動できる。 ③組織の中で、自らの専門的知識・理解・技能、個性や能力を活かして協働できる。 ④適切なリーダーシップを発揮できる。 ⑤専門的知識・理解・技能等を活用して、社会に貢献できる。 <p>6. 自立性</p> <ul style="list-style-type: none"> ①卒業後も生涯を通じて学び続けられるよう、自立的な学習能力を身につけている。
---	--

ーカリキュラムマップを活用した学修成果の可視化についてー

修得した科目の成績から算出された6つの能力ごとのGPAの数値を線をつなぎ、レーダーチャートに表したグラフを、京女ポータル学修ポートフォリオで確認することができます。

学修成果を視覚的に確認することにより、自身の強みや弱みを知り、履修科目の検討、進路決定や就職活動等に活用することができます。



■ナンバリング

ナンバリングは、学修の順序や当該科目の位置付け・体系性を視覚化するため、全ての開講科目に規則的な番号を付番したものです。

例)国文学科開講科目「基礎演習 A」

L1 2 1 2 2
① ② ③ ④ ⑤

- ①: 学科等の開講元識別記号を表しています。〈例〉「L1」…国文学科
 ②: 授業レベルを4種類に区分しています。〈例〉「2」…基礎
 ③: 専門科目、共通科目などの科目区分や必選の別を表しています(※)。〈例〉「1」…専門科目(必修)
 ④: 授業形態を5種類に区分しています。〈例〉「2」…演習・講読
 ⑤: 学位授与の方針に示された6つの能力のうち、カリキュラムマップが示す、科目と最も関連性の深い能力を表しています。〈例〉「2」…汎用的技能

(※)卒業要件としての必修・選択を示しています。

①開講元識別記号

◆建学科目群		
仏教学		A1
◆共通科目群		
言語コミュニケーション科目	英語	B1
	ドイツ語	B2
	フランス語	B3
	中国語	B4
	韓国語	B5
	日本語	B6
情報基盤科目		C1
健康科学科目		D1
ジェンダー科目		F1
連携活動科目		G1
国際理解科目		B7
教養科目		E1
◆諸課程履修科目		
教職課程科目		V1
学芸員課程科目		V2
司書課程科目		V3
日本語教師課程科目		V4

◆専門科目群	
文学部共通専門科目	L0
国文学科専門科目	L1
英文学科専門科目	L2
史学科専門科目	L3
教育学科共通科目	M0
教育学専攻専門科目	M1
養護・福祉教育学専攻専門科目	M2
音楽教育学専攻専門科目	M3
児童学科専門科目	M4
心理学科専門科目	M5
食物栄養学科専門科目	N1
生活造形学科専門科目	N2
現代社会学科専門科目	P1
法学科専門科目	Q1
データサイエンス学科専門科目	R1

②授業レベル

1	入門
2	基礎
3	応用
4	発展
-	-
-	-
9	その他

③科目区分

1	専門科目(必修)
2	専門科目(選択)
3	共通科目(必修)
4	共通科目(選択)
5	諸課程科目
-	-
9	その他

④授業形態

1	講義
2	演習・講読
3	実験・実習・実技
4	学外実習・研修
5	卒業論文・卒業研究
-	-
9	その他

⑤学位授与の方針

1	知識・理解
2	汎用的技能
3	思考・判断
4	対話・相互理解
5	社会性・自律性
6	自立性
9	その他

Ⅱ. 履修科目表・カリキュラムマップ

目 次

建学科目群（全学科・専攻共通の科目）	P.16
共通科目群（全学科・専攻共通の科目）	P.16
諸課程履修科目（全学科・専攻共通の科目）	P.24
専門科目群		
文学部	国文学科 P.29
	英文学科 P.32
	史学科 P.35
発達教育学部	教育学科 教育学専攻 P.40
	教育学科 養護・福祉教育学専攻 P.43
	教育学科 音楽教育学専攻 P.45
	児童学科 P.48
	心理学科 P.50
家政学部	食物栄養学科 P.52
	生活造形学科 P.54
現代社会学部	現代社会学科 P.58
法学部	法学科 P.62
データサイエンス学部	データサイエンス学科 P.66
履修チェックシート	P.70

建学科目群 及び 共通科目群

コリア語

ナンバリング	科目名	必選の別	単位数計	開講学期と単位数								カリキュラムマップ								備考		
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・知識	技能的	汎用的判断	思考・相互理解	対話・自律性	社会的・自律性	自立性				
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期											
B51322	コリア語 I A1	選	1	1										○	◎						コリア語を選択した者は必修	
B51322	コリア語 I A2	選	1	1										○	◎							
B51322	コリア語 I B1	選	1		1									○	◎							
B51322	コリア語 I B2	選	1		1									○	◎							
B52422	コリア語 II A1	選	1	(1)		1								○	◎						修得単位は、卒業に必要な単位に含めることができる。 コリア語Ⅲの単位を修得するためには、コリア語Ⅱ6科目のうち、コリア語ⅡA1を含む3科目の単位を修得しなければならない。	
B52422	コリア語 II A2	選	1	(1)		1								○	◎							
B52422	コリア語 II A3	選	1	(1)		1								○	◎							
B52422	コリア語 II B1	選	1		(1)		1							○	◎							
B52422	コリア語 II B2	選	1		(1)		1							○	◎							
B52422	コリア語 II B3	選	1		(1)		1							○	◎							
B53422	コリア語 III A1	選	1			(1)		1						○	◎							
B53422	コリア語 III A2	選	1			(1)		1						○	◎							
B53422	コリア語 III B1	選	1				(1)		1					○	◎							
B53422	コリア語 III B2	選	1				(1)		1					○	◎							
B54422	コリア語 III A3	選	1					(1)		1				○	◎							
B54422	コリア語 III B3	選	1						(1)		1			○	◎							

日本語

ナンバリング	科目名	必選の別	単位数計	開講学期と単位数								カリキュラムマップ								備考		
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・知識	技能的	汎用的判断	思考・相互理解	対話・自律性	社会的・自律性	自立性				
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期											
B62422	日本語 I A1	選	1	1											○	◎					日本語は外国人留学生に限り履修することができる。	
B62422	日本語 I A2	選	1	1										○	◎							
B62422	日本語 I B1	選	1		1									○	◎							
B62422	日本語 I B2	選	1		1									○	◎							

外国人留学生は、言語コミュニケーション科目として母語を履修することはできない。

英語を母語とする外国人留学生は、「ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語、日本語」より二外国語を選択し、それぞれにつき、I A1、I A2、I B1、I B2を修得して言語コミュニケーション科目の必修単位(合計8科目8単位)とすること。

情報基盤科目

ナンバリング	科目名	必選の別	単位数計	開講学期と単位数								カリキュラムマップ								備考	
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・知識	技能的	汎用的判断	思考・相互理解	対話・自律性	社会的・自律性	自立性			
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期										
C11322	情報リテラシー	必	2	2											○	◎					
C11322	データ・AIリテラシー(*)	必	2	(2)	2										○	◎					
C12412	情報基礎A	選	2		2									○	◎						
C12412	情報基礎B	選	2		2									○	◎						
C12412	情報基礎C	選	2			2								○	◎						
C12412	情報基礎D	選	2			2								○	◎						
C12422	データ・AI基礎A	選	2			2								○	◎						
C12422	データ・AI基礎B	選	2				2							○	◎						
C12422	データ・AI基礎C	選	2			2								○	◎						
C12422	データ・AI基礎D	選	2				2							○	◎						

(*)データサイエンス学部のみ、1回生前期開講

健康科学科目

ナンバリング	科目名	必選の別	単位数計	開講学期と単位数								カリキュラムマップ								備考		
				1回生		2回生		3回生		4回生		理解・知識	技能的	汎用的判断	思考・相互理解	対話・自律性	社会的・自律性	自立性				
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期											
D11315	運動と健康科学	必	2	2	(2)										○							
D11435	スポーツ実践	選	1	1	(1)															◎	○	

○情報基盤専門部会運営内規

令和5年4月1日制定

(目的)

第1条 情報基盤専門部会（以下、「専門部会」と言う。）は、学長の年次方針に基づく情報基盤機構の年次計画実施に当たり、教育研究環境の整備に関する方針を踏まえ、最適・良好な学術情報基盤（情報システム・情報教育）の整備に必要な制度・事項について検討する。

(検討事項)

第2条 専門部会は次の事項について方向性提示、施策立案、点検評価、改善施策の立案を行う。

- (1) 大学の情報システムの整備及び管理運営に関する事項
- (2) 大学の共通領域科目の情報基盤科目運営に関する事項
- (3) 大学の教育研究活動の情報化推進に関する事項
- (4) 大学のeラーニング教育の推進に関する事項
- (5) 学生・教職員への情報サービス展開に関する事項
- (6) 情報セキュリティに関する事項
- (7) 情報基盤センターに関する事項

(組織)

第3条 専門部会は、次の者をもって組織する。

- (1) 情報基盤部長
- (2) 財務部長
- (3) 情報基盤部長の推薦に基づき学長が指名する教員（若干名）
- (4) 財務部長の推薦に基づき事務局長が指名する事務職員（若干名）
- (5) CIO補佐
- (6) 情報基盤管理運用責任者
- (7) 施設課長
- (8) 教務課長
- (9) 情報システム課長

(任期)

第4条 前条第1項第1号、第2号、第5号、第6号、第7号、第8号及び第9号の委員の任期は在任中とする。

2 前条第1項第3号及び第4号の委員の任期は2年とし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残余期間とする。

(招集及び運営)

第5条 第3条第1項第1号の委員は専門部会の部会長となり、専門部会を招集し主宰する。

2 部会長に事故あるとき、または不在のときは、財務部長が専門部会を招集する。

3 専門部会は原則として毎月1回開催することとする。

4 専門部会は委員の3分の2以上の出席をもって成立する。

5 部会長は必要な場合、専門部会の構成員以外の者であっても専門部会に出席させ、意見を聞くことができる。

(報告)

第6条 部会長は専門部会における検討内容及び施策について、適宜執行部会に報告し、学長の了承を得ることとする。

(連絡調整会議)

第7条 専門部会は、関連業務を効率的に遂行するために、必要に応じて連絡調整会議を開催し、専門部会の検討結果に基づく定型的業務の連絡調整を行うこととする。

(点検・評価)

第8条 専門部会は、毎年度事業終了後、第2条に掲げる検討事項に関する点検・評価を行い、その結果を学長に報告するものとする。

(事務の所掌)

第9条 専門部会の事務は情報システム課が行う。

(改廃)

第10条 本内規の改廃は、情報基盤部長の申し出に基づき学長が行う。

附 則

1 この内規は、令和5年4月1日から施行する。

2 この内規の施行をもって「学術情報メディア専門部会運営内規」（令和4年4月1日制定）を廃止する。

(設置)

第1条 京都女子大学学則第59条に基づき、京都女子大学（以下「本学」という。）に情報基盤センター（以下「センター」という。）を置く。

2 センターの組織及び運営は、この規則の定めるところによる。

(目的)

第2条 センターは、京都女子大学情報基盤専門部会（以下「専門部会」という。）で決定された事項に基づき、本学の情報基盤の整備及び管理運用を行い、ICTを活用した教育研究の支援及び大学運営に係るICT活用支援を行うことを目的とする。

(事業)

第3条 センターは前条の目的を達成するため、次に掲げる業務を行う。

- (1) 大学の情報基盤の整備及び維持管理に関すること
- (2) 情報化に係る体制の整備に関すること
- (3) 情報セキュリティに関すること
- (4) 大学の共通領域科目の情報基盤科目運営に関すること
- (5) 大学の教育研究活動のICT活用支援に関すること
- (6) 大学のeラーニング教育の推進及び授業運営・教材作成支援に関すること
- (7) 大学運営に係るICT活用支援に関すること
- (8) その他センターの目的達成に必要な業務に関すること

(センター構成員)

第4条 センターの事業を行うため次の構成員を置く。

- (1) 情報基盤センター長（以下「センター長」という。） 1名
- (2) 情報基盤副センター長（以下「副センター長」という。） 1名
- (3) 情報基盤センター員（以下「センター員」という。） 若干名
- (4) 情報基盤センター専従教員（以下「専従教員」という。） 若干名

(センター長)

第5条 センター長は、第3条にかかげる事業を遂行するために、センター運營業務全般を統括する。

- 2 センター長は、専任職員の中から、学長が委嘱する。
- 3 センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。

(副センター長)

第6条 副センター長は、センター長のもとにセンターの事業全般を掌り、センター構成

員として第3条にかかげる事業の遂行に従事するとともに、構成員を指揮して事業に付随する諸業務を推進する。

- 2 副センター長は、センター員の中からセンター長が指名する。
- 3 副センター長は、センター長に事故あるとき又はセンター長が欠けたとき、センター長の職務を代行する。
- 4 副センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。

(センター員)

第7条 センター員は、センター長及び副センター長のもと、センター構成員として第3条に掲げる事業に従事する。

- 2 センター員は、専任職員の中から、センター長の推薦にもとづき、情報基盤センター運営委員会の議を経て、学長が委嘱する。
- 3 センター員の任期は2年とし、再任を妨げない。

(専従教員)

第8条 第4条第4項の専従教員とは、専ら第3条に規定する事業の実施及び企画・立案に従事する大学教育職員を言う。

- 2 専従教員の任用に関する事項等については、京都女子大学教員の採用及び昇任の手続きに関する規則第4条第4項の規定に基づき、大学教員人事会議において定めるものとする。

(運営委員会)

第9条 センターの適正かつ円滑な運営を図るため、情報基盤センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を設ける。

- 2 委員長は、第14条に掲げる事項のうち軽微な事項の決定については、委員長が指名する複数の委員による小委員会に委任することができる。ただし、小委員会の決定内容については、委員会に報告しなければならない。
- 3 小委員会の構成及び取扱う事項については、あらかじめ運営委員会で決定するものとする。

(運営委員会の構成)

第10条 運営委員会は次の各号に定める委員をもって構成する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) センター員 全員
- (4) 専従教員 全員
- (5) 教務課長

- (6) 施設課長
- (7) 情報システム課長
- (8) センター長の指名する者 若干名
(任期)

第11条 前条第1号から第7号に定める委員の任期は、それぞれの在任中とする。

- 2 前条第8号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。
(委員長並びに副委員長)

第12条 運営委員会に、委員長並びに副委員長を置く。

- 2 委員長は、センター長をもってあて、副委員長は、副センター長をもってあてる。
(運営)

第13条 運営委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

- 2 運営委員会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立し、出席者の過半数の賛成をもって議決する。
- 3 委員長は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。
(審議事項)

第14条 運営委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) センターの管理・運営に関する事項
- (2) センターの事業計画に関する事項
- (3) センターの業務に関する事項
(報告)

第15条 委員長は、審議内容を情報基盤専門部会にすみやかに報告しなければならない。
(点検・評価)

第16条 運営委員会は、センターの自己点検・評価を定期的に行い、その結果を情報基盤専門部会に報告するものとする。

(事務の所掌)

第17条 センターの事務は、情報システム課がこれを所掌する。
(改廃)

第18条 この規程の改廃は、評議会の議を経て、学長が行う。

附 則

- 1 この規程は、令和5年4月1日から施行する。
- 2 この規程の施行をもって「京都女子大学情報運営委員会規程」（令和4年4月1日制定）、及び「京都女子大学eラーニング推進センター規則」（平成23年3月30日制定）を廃止する。

大学等名	京都女子大学
教育プログラム名	京女のデータ・AIリテラシープログラム

申請レベル	リテラシーレベル
申請年度	令和 6 年度

京女のデータ・AIリテラシープログラム実施概要

目的

社会におけるデータサイエンスやAI利活用の仕組みを理解し、リテラシーを身に付ける

身につけられる能力

- ・ 社会におけるデータ・AI利活用の理解
- ・ データ活用上の留意点（データ倫理の重要性など）の理解
- ・ データの加工・分析手法，結果を解釈し説明できる能力
- ・ 数量データを含む多様な情報を収集・分析・表現し活用するためのリテラシー



授業科目

- ・ データ・AIリテラシー（全学生1年次必修科目，2単位）
- ・ 情報リテラシー（全学生1年次必修科目，2単位）

アンケート

- ・ 学生の理解度フィードバック
- ・ 授業評価



実施体制

情報基盤専門部会・情報基盤センター運営委員会